

令和2年度企業版ふるさと納税活用事業

資料3-3

1. 包括的な地域再生計画

地域再生計画名：埼玉県まち・ひと・しごと創生推進計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

(1) 取組内容

| 事業名                                     | 分野  | 基本目標      | 事業内容及び結果  | 寄附企業数<br>寄附額 |
|---|-----|-----------|---|--------------|
| 渋沢栄一翁を軸とした観光振興や<br>創業プロジェクトの推進          | 観光  | 基本目標<br>2 | 渋沢栄一翁が新一万円札の肖像に選ばれ、大河ドラマの主人公にも決定したことを好機と捉え、地元深谷市などと連携し、県内外からの観光客誘致を図る。<br><br><b>【主な取組】</b><br>○大河ドラマ「青天を衝け」深谷市推進協議会への参画による大河ドラマ館の設置運営及び深谷市への誘客宣伝の支援<br>○三偉人ゆかりの地を巡る日帰りバスツアーの実施<br>○三偉人を絡めたスタンプラリーの実施<br>○渋沢栄一翁とふるさと埼玉・深谷をPRする動画の制作<br><br><b>【結果】</b><br>新型コロナウイルス感染症拡大による人流抑制などの影響がある中、コロナ収束後の観光客誘致に向け、県内外に広告動画により広くPRできた。<br>なお、東京駅発着の都営バスラッピング広告は、東京商工会議所会頭賞を受賞した。<br>今後も新型コロナウイルス感染症の収束を見据えながら、引き続き事業を推進し、観光客誘致を図る。  |              |
|   | 産業  | 基本目標<br>1 | 渋沢栄一翁の理念を受け継ぐ起業家や起業希望者、ベンチャー企業を支援することにより、新産業の創出や地域経済の活性化を促進する。<br><br><b>【主な取組】</b><br>○県内スポーツチーム(越谷アルファーズ)の協力のもと、チームから提供された課題をテーマに、ベンチャー企業からビジネスプランを募集<br>支援対象者を選定し、伴走支援を実施。<br>・先輩起業家等によるメンタリング<br>・チームとの協業に向けた支援<br>・ビジネスマッチングや資金調達等の支援<br>・成長機会の提供(ピッチイベント)<br><br><b>【結果】</b><br>伴走支援対象者(10社)のうち、プロスポーツチームとの連携による実証実験の実施につながった企業が3社生まれるなど、ビジネス創出や事業成長を支援することができた。<br><br><b>【関連する取組】</b><br>○県内スポーツチームの協力のもと、「埼玉型未来創造オープンイノベーションリーダー支援事業」(地方創生推進交付金事業)を実施。   |              |
| 子ども食堂応援プロジェクト<br>※令和元年度から継続実施           | 少子化 | 基本目標<br>3 | 子ども食堂等の子供の居場所を、地域の力を結集して運営する「地域のキーステーション」と位置づけ、県内に800か所程度(子供が安全に歩いて通える距離とされる小学校区の数と同じ数)を目標に、本県全域で取組を展開することで、地域全体で子供を育てる社会の実現を図る。<br><br><b>【主な取組】</b><br>○子供の居場所づくりアドバイザーの派遣による活動の立ち上げ支援<br>○SNSでの情報発信、子ども食堂フォーラムの開催や出前講座の実施等を通じた子供の貧困の問題についての啓発活動の実施<br>○「こども応援ネットワーク埼玉」を通じた子供の居場所運営団体と支援企業等のマッチング<br><br><b>【結果】</b><br>令和2年度末時点で380か所の子どもの居場所が整備されており、社会全体で子供を支える環境づくりが進んでいる。(目標364か所(令和2年度末))   | 9社<br>890万円  |
| 埼玉の川の再生<br>「川の国埼玉」を目指して<br>※令和元年度から継続実施 | 観光  | 基本目標<br>2 | 「川の国埼玉」を県内外に浸透させ、県内の水辺に人を集めるため、ラジオCMやYouTube動画によるPR事業を実施するとともに、民間企業のノウハウを活用し、多彩な水辺空間を創出する。<br><br><b>【主な取組】</b><br>○SNS広告の配信<br>○観光ガイドブック掲載<br>○川の再生事業紹介パンフレット作成<br>(その他)<br>○水辺空間の整備や新たな魅力スポットの創出(川の国埼玉はつらつプロジェクト)<br>○河川敷地を民間事業者等が活用できる「都市・地域等再生利用区域」の指定(水辺空間とことん活用プロジェクト)<br><br><b>【結果】</b><br>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、川遊びスポットの大半が営業自粛や利用者数を制限したことから、県管理河川における川遊びスポットの夏期(7～8月)入込客数は17.2万人と前年度(23.2万人)を下回った。<br>県では令和3年度から「Next川の再生『水辺deベンチャーチャレンジ』」として、地域の方々や川の活動団体、民間事業者など多様な主体と連携し、これまでの川の再生のノウハウや民間のアイデアを生かして、より魅力ある河川空間の整備を進めていく。<br>これらの事業と連携しながら、引き続き情報発信を行うことで、集客を図っていく。 |              |

(2) 数値目標

| 基本目標                          | KPI<br>重要業績評価指標                         | 実績値(a)                | 達成率<br>(a/b) | 検証結果(案)   |
|-------------------------------|---|-----------------------|--------------|---|
|                               |   | 目標値(b)                |              |   |
| 基本目標1<br>県内における安定した雇用を創出する    | 経営革新支援、次世代産業・先端産業支援<br>及び企業誘致による付加価値創出額 | 954億円<br>[ 774億円]     | 123.3%       | 積極的な企業誘致、経営革新支援を行う企業の積極的な掘り起し、次世代産業・先端産業支援についての支援企業の事業化促進・販路開拓支援により、目標値を達成した。 |
| 基本目標2<br>県内への新しいひとの流れをつくる     | 人口の社会増の維持<br>(全年齢)                      | 17,912人<br>[ 17,036人] | 105.1%       | 人口の社会増の維持(0~14歳)は、全国的に年少人口が減少し、年少人口の社会移動も縮小する中、全国2位ながら年度目標を下回った。              |
|                               | 人口の社会増の維持<br>(0~14歳)                    | 2,555人<br>[ 3,440人]   | 74.3%        |   |
| 基本目標3<br>県民の結婚・出産・子育ての希望をかなえる | 合計特殊出生率[概算値]                            | 1.26<br>[ 1.45 ]      | 86.9%        | 未婚化・晩婚化の進行などの影響により、目標値を下回った。  |

2. 個別地域再生計画

| No. | 地域再生計画名  | 期間           | 分野   | 事業内容   | 重要業績評価指標 (KPI)  | 実績値 (a)<br>目標値 (b)         | 達成率 (a/b) | 検証結果(案)  |
|-----|--|--------------|------|--|---|----------------------------|-----------|--|
| 1   | 子ども食堂応援プロジェクト<br>包括的な計画で引き続き実施                     | R1～<br>3年度   | 労働   | 子ども食堂等の子供の居場所を、地域の力を結集して運営する「地域のキーステーション」と位置づけ、県内に800か所程度(子供が安全に歩いて通える距離とされる小学校区の数と同じ数)を目標に、本県全域で取組を展開することで、地域全体で子供を育てる社会の実現を図る。<br><br>【主な取組】<br>○子供の居場所づくりアドバイザーの派遣による活動の立ち上げ支援<br>○SNSでの情報発信、子ども食堂フォーラムの開催や出前講座の実施等を通じた子供の貧困の問題についての啓発活動の実施<br>○「こども応援ネットワーク埼玉」を通じた子供の居場所運営団体と支援企業等のマッチング | 子供の居場所*の数<br><br>*子ども食堂、学習支援の場、プレーパーク等                              | 380か所<br><br>[364か所]       | 104.4%    | 目標を上回っており、社会全体で子供を支える環境づくりが進んでいる。  |
| 2   | 埼玉の川の再生<br>「川の国埼玉」を目指して<br>包括的な計画で引き続き実施           | R1～<br>3年度   | 観光   | 「川の国埼玉」を県内外に浸透させ、県内の水辺に人を集めるため、ラジオCMやYouTube動画によるPR事業を実施するとともに、民間企業のノウハウを活用し、多彩な水辺空間を創出する。<br><br>【主な取組】<br>○SNS広告の配信<br>○観光ガイドブック掲載<br>○川の再生事業紹介パンフレット作成<br>○水辺空間の整備や新たな魅力スポットの創出(川の国埼玉はつらつプロジェクト)<br>○民間事業者等による河川敷地の利用を可能とする「都市・地域等再生利用区域」の指定(水辺空間とことん活用プロジェクト)                            | 県管理河川における川遊びスポットの夏期入込客数(7～8月)                                       | 17.2万人<br><br>[26.6万人]     | 64.7%     | 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、川遊びスポットの大半が営業自粛や利用者数を制限したことから、目標を下回った。県では令和3年度から「Next川の再生『水辺deベンチャーチャレンジ』」として、地域の方々や川の活動団体、民間事業者など多様な主体と連携し、これまでの川の再生のノウハウや民間のアイデアを生かして、より魅力ある河川空間の整備を進めていく。これらの事業と連携しながら、引き続き情報発信を行うことで、集客を図っていく。             |
| 3   | 埼玉の魚影豊かな川づくり推進計画<br>企業版ふるさと納税制度活用はR1年度で終了          | H30～<br>R2年度 | 農林水産 | 魚の放流や外来魚・カワウ駆除対策を行うことで、県内の河川に魚を呼び戻し、魚の増加が釣り人の増加や漁協の収益改善につながる好循環を形成する。また、魚影豊かな川が復活することで、釣り関連産業の活性化だけでなく、川に親しむ交流人口を増加させ、地域経済の活性化を目指す。<br><br>【主な取組】<br>○地元団体等による入間川・荒川等への魚を放流<br>○外来魚・カワウの駆除<br>○ワカサギ卵放流指導、ワカサギの放流   | 遊漁券収入   | 39,045千円<br><br>[65,000千円] | 60.1%     | 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、ゴールデンウィーク中の緊急事態宣言及びその後の外出自粛の影響により、遊漁者数及び遊漁券収入ともに目標値を下回った。一方、コロナ禍により屋外でのレジャーが見直されており、遊漁についても関心が高まっている。また、外来魚・カワウの数も減少傾向であり、今までの取組の成果が表れている。「魚が増え、釣り人が増加し、遊漁収入の増加につながる好循環」を確立させるとともに、地域経済の活性化を図るため、引き続き事業を実施する。 |
|     |  |              |      |  | 遊漁者数  | 13,797人<br><br>[22,600人]   | 61.0%     |  |
| 4   | 森林技術者の確保・育成計画<br>企業版ふるさと納税制度活用はR1年度で終了             | H30～<br>R2年度 | 農林水産 | 林業への就業希望者を即戦力として養成する研修を実施し、森林の循環利用「伐って・使って、植えて、育てる」を推進する人材を育成する。<br><br>【主な取組】<br>○森林技術者養成のための研修実施<br>・森林・林業に関する座学研修<br>・安全衛生教育<br>・チェーンソー実技研修<br>・木材加工工場現場見学<br>・伐木・造材等実践研修<br>○林業事業者による企業説明会、就業相談会の実施  | 研修受講者のうち林業への就業者数  | 4人<br><br>[10人]            | 40.0%     | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による将来不安により、就業先となる林業事業者の雇用意欲が減退したことから、目標を下回った。今後は、就業希望者が即戦力となるよう実践的な研修を提供するとともに、林業が魅力的な職場となるよう林業事業者にも理解を求めて林業就業者数の増加を図る。  |
| 5   | 米・麦・大豆の優良種子生産体制強化プロジェクト<br>企業版ふるさと納税制度活用はR1年度で終了   | H30～<br>R2年度 | 農林水産 | 主要農作物である米・麦・大豆種子の安定生産体制を確立するため、各種子産地の将来ビジョンや需要を踏まえた「種子産地強化計画」を策定する。<br><br>【主な取組】<br>○種子産地において新たな生産者確保のための数値目標や具体的な方策等を定めた「種子産地強化計画」を作成  | 種子産地強化計画策定地区数(累計)   | 10地区<br><br>[9地区]          | 111.1%    | 種子産地強化計画策定地区数及び10a当たりの大豆種子収穫量ともに目標値を上回っており、安定生産体制の確立が図られた。   |
|     |  |              |      |  | 10a当たりの大豆種子収穫量  | 102.0kg<br><br>[100.0kg]   | 102.0%    |  |
| 6   | 熊谷スポーツ文化公園ラグビーの聖地化プロジェクト<br>企業版ふるさと納税制度活用はH30年度で終了 | H30～<br>R2年度 | 観光   | ラグビーワールドカップ2019™の開催に向け、熊谷スポーツ文化公園ラグビー場に大型映像装置を整備し、試合観戦環境の一層の向上を図ることで、ラグビーの聖地としてのブランド力を高め、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。<br><br>【主な取組】<br>○グラウンド整備(芝の改修)<br>○公園施設(ジョギングコース等)の改修   | 熊谷スポーツ文化公園有料施設*利用人数<br><br>*ラグビー場、陸上競技場、屋内運動施設、体育館、ソフトボール場、グランドゴルフ場 | 31.0万人<br><br>[102.0万人]    | 30.4%     | 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、施設の利用制限を行ったことなどから、目標値を下回った。しかし、平成30年度の実績は105.3万人、令和元年度の実績は113.3万人であり、ラグビーの聖地としてのブランド力を高めるとともに、交流人口の拡大と地域経済の活性化に貢献した。  |